

みやの森通信



発達凸凹向けフリーペーパー 第28号:2023年10月5日発行 編集長:家森 謙
Ponteとやま(みやの森カフェ) 富山県砺波市宮森303 電話:0763-77-3733
メール:miyanomori.ponte@gmail.com

Ponteとやま facebook 検索



クラウドファンディング成功

セカンドゴール達成!

Ponteとやま×シェアライフ富山

7月14日~8月28日チャレンジ 頂いた額:2,192,000円

おそらくは…

絶対しなだと思っていたクラウドファンディングに
チャレンジすることになりました(第27号記事の続き)



今まで私たちは助成金や寄付に頼らず自力でやってきました。寄付をいただくというのはどういうことか…クラウドファンディングを始めてからも迷いながらやっていました。しかし、皆さんの「応援しています!」の声は、もちろん私たちにとってうれしいことですが、応援してくれている皆さんもとても楽しそうで、ともにやっていくことを喜んでくれているようにも思いました。

そして、とうとうファーストゴールが 8月3日に達成。そのあともぐんぐん伸び続けて200万を超えた時はびっくりと感謝と「がんばろう」という決意がごちゃまぜ。実は私たちの活動は、「誰かのためにいいことをしている」のではないので、アピールがむずかしく、やっとたどり着いた結論が「凸凹文化の創造と発信」でした。

おそらく凸凹は誰にでもある。でも、その凸凹の具合が大きくて今の社会になかなかなじめない人もいます。その凸凹をお互いに認め合ったり活かす社会になれば、実は隠し持っている人たちも自分の凸凹にも寛容になり、その中で自由な発想や行動が生まれてくるのではないかと思います。

クラファンをやったことで、確かに輪が広がりました。輪島貫太君がシェアハウスに来てくれて、その空気を感じながら素晴らしいイラストを描いてくれた後、輪島家と夜遅くまでメールでやり取りしながらグッズを作りました。この夏体調を崩してかなり引きこもっていたカナメ君は、引きこもりの最中もドリップパックの試行錯誤を繰り返していました。さをりをりの森井奈津子さんもリターン品であるコースターを作りながら、「鍋つかみにも代用できるようにしたい」と工夫を重ねていました。

そして、お泊り体験を希望してくれた皆さんとこれから出会うのも楽しみ。シェアハウスと新しい拠点ができたことで新たな歩みが始まります。どうぞ楽しみにしてくださいね。

みやの森通信 バックナンバーはこちらから

Ponteとやま フリーペーパー

検索



ホームページはこちらから

Ponteとやま

検索



タカチ動物園特別編 ～感情と理念～



僕は元々生き物が好きだった。しかしこんなにも多くの生き物を飼育するとは思っていなかった。今回は当園の成立ちについて説明しよう。

かつて小学生を対象に『環境を守ろう』と伝える仕事をしていたことがあった。しかし、いざ自然を守ろうと言われても座学では実感がわかないし面白くない。2007年にトノサマガエルが県東部で絶滅という新聞記事があり、その記事に強い衝撃を受けた。そこで近所で捕獲したカエルを捕まえ、展示し、「君たちが大人になってもカエルたちが生きていたらいいよね。」と話をした。それから時が経ち、とある施設で生き物の展示に携わることになった。費用をかけずに生き物の展示を増やす方法として、過去の経験を活かし、野生の生き物を捕獲・飼育・展示することを提案したが、最終的に受け入れられず、全て自分でやることにした。それがタカチ動物園のスタートとなった。



さあ、生き物の採取に行こう。最初に考えたのが、採取及び飼育難易度の低いアカハライモリだ。しかし、生息地で野生のツキノワグマに至近距離で出くわす。(みやの森通信第10号) さらに、2019年9月末にマムシに手を咬まれる。(第3,9号) なんだかんだで何回も死にかけている。そして2019年12月新型コロナが流行する。結果、不特定多数向けの展示スタイルに加え、特定の人を対象とした講演会スタイルが始まった。(第9号) その後、当初目標として定めたテレビへの出演を2021年1月放送の『柴田理恵認定ゆるゆる富山遺産 第33回』で果たし、今に至っている。



犬猫だけがペットじゃない！今まで認めなかった奴らを見返してやる！といったドス黒い感情に突き動かされてここまできたが、身近な生き物に関心を持ってもらうことで環境を守るという当初の理念は今も生きている。

ちなみに様々な生き物を飼育しているが、一匹も名前を付けてはいない。強いて言うなら捕まえた順番に○号と呼ぶぐらいだ。

これには訳があって、名前を付けてしまうと擬人化してしまって、生き物の生態を知る妨げになると考えているからだ。

飼育されている生き物 18種 (2023年9月現在)

両生類：アカハライモリ、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエルツチガエル、アズマヒキガエル

爬虫類：ニホンヤモリ、ニホンカナヘビ、ニホントカゲ、シマヘビ、アオダイショウヒバカリ、ジムグリ

その他：トビズムカデ、アオズムカデ、ワラジムシ、ハエトリグモ、餌用ローチ



耳より！情報

第6回 おなかから満たす愛食 「蓮根のすりながし汁」 by ともよ

食べるのも作るのも大好き、耳寄り情報を担当するともよです。食を通して自分を満たし、ごきげんな生き方へ。今回から「愛食」シリーズをお届けします。

知ってましたか？

素材本来のシンプルな料理は誰にとっても食べられることを。さらに、ポイントを押さえればおいしくなり、調理は自分たちの自由でいいのです。

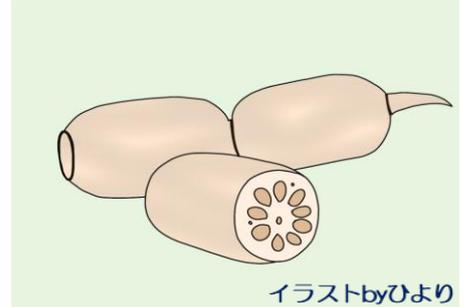
10月に旬を迎えた「蓮根」。見た目の淡白さからは想像できないほど、栄養がたくさん。特にビタミンCや食物繊維が豊富です。

- ◆美味しさポイントは、切り方や加熱方法でさまざまな食感が楽しめること！
薄切りでシャキシャキのきんぴらに、ホクホクの煮物は乱切りにして、ゆっくり加熱。すりおろすと、トロツとした食感になり、料理のとろみづけにもなります。すりおろしの水分を切ると、もっちりした食感にも。

◆愛食するなら「蓮根のすりながし汁」がおすすめ

- ①今の気持ちに合わせた出汁・スープを用意
癒しなら昆布出汁、元気は鰹と昆布の合わせ出汁、明るくならコンソメスープ。
- ②旨みとコクだしに酒を大さじ1ほど加えて煮立てます。
- ③すりおろし蓮根の量は、自分のおなかに聞いてみる！
あっさりとなら少なめに、まんぷくになりたいなら多めに。
- ④半透明のとろみは食べてOKのサインぐつぐつとしっかり加熱することで、蓮根に火が通りとろみが付きます。
- ⑤味付けは味覚でチェック薄ければ塩を。さらに、醤油で風味づけしてもよいです。
- ⑥視覚でも楽しみを 汁をお椀によそい、彩りに清々しいすりおろし生姜、緑の青ネギや青のりで飾り付けて完成です。

自分の気持ちに寄り添った料理は、美味しさだけでなく心も満たしてくれますよ。



いただいたもの 及び Ponteとやま(みやの森カフェ)お仕事一覧 (2023年8-9月)

いただいたもの：米をいろんな方からいただきました！食べ盛りの若者と子どもにとっては元気のもと！ありがたいです。
他にも 野菜・菓子・食器などたくさんいただきました。



みなさまのご厚意に
心から感謝いたします！

イベントなど

- 8月29日 NHK「ニュース富山人放映」（別日に全国放送・中部地方放送も有）
- 9月 5日 シンガポールのテレビ局取材
- 9月 5日 南砺市・小矢部市・砺波市メンタルヘルスサポーター研修
- 9月21日 南砺市民生委員研修
- 9月21日 射水市保護者サロン「おしゃべりほっとサークル」アドバイザー（水野）
- 9月24日 中高生のための「はたらく」体験講座（加藤と・水野・Ponteクリーンチーム）
- 9月25日 まずの寿司手作り体験（源まずの寿司ミュージアム・PonoFamilie子ども応援活動）
- 9月25日 富山保健所「引きこもり講演会」（加藤・高島要）
- 9月28日 Roots of Life ワークショップ「不登校っていけないの？」講師（水野）
- 9月29日 射水市保護者支援講座「シェアタイム」講師（水野）

地域へ出張

みやの森カフェ

9月10日日曜日に、砺波市安川になる庄東センターで、出張カフェ保健室（ほっとなみカフェ）を行いました。

ほっとなみカフェというのは、砺波市から委託されている「認知症カフェ」です。

一般的に「認知症カフェ」は看護師さんとか介護士さんという専門職や家族会が運営している場合が多く、私（加藤）のような経験のない素人が主宰しているのはあまりないと思います。

実は、それを私も「大丈夫かな～」と心配していた時期もありました。しかし、若年性認知症当事者の丹野智文さんが、「認知症のことだけに注目するところには行きたくない。ガンダムの話ができる所なら行きたいかな」と言われていたのを聞いて、「それならできる！」と思いました。



みやの森カフェは、いろんな人がいろんな事情を抱えてくることもありますが、ここではそれに関係なくいろんなおしゃべりの花が咲きます。それで元気になっていく人が多いのかもしれないと思っています。そして、徐々に集まり始め専門職の皆さんは、必要なことにだけそっとサポートしてくれる。集まる人も高齢者もいれば若者もいてここもやっぱりごちゃまぜモード。

今回の出張カフェにもごちゃまぜにいろんな人が参加してくれました。相談ブースも充実。そして、「認知症を学ぶ」即興劇も楽しみました。皆さん、ありがとうございました。

みやの森カフェに集ってくれている専門職集団のブースは以下でした。

- 臨床美術体験（臨床美術士 渡辺恭子）
- お口の相談（歯科衛生士 歯周改善療法士・口腔機能療法士 八幡祐子）
- お薬相談（漢方未病相談薬剤師 正川咲子）
- 血圧測定・健康相談（看護師・社会福祉士 江畑美由紀）
- 体と姿勢の相談（理学療法士 且味真由美）
- 子育て・発達相談（公認心理師・臨床発達心理士 水野カオル）

みやの森通信 バックナンバーはこちらから

Ponteとやま フリーペーパー

検索 ↗



ホームページはこちらから

Ponteとやま

検索 ↗



海外TV取材

シンガポールの
テレビ局の方が来られました！

ある日、「富山県庁観光課」からメールが入りました。「シンガポールのテレビ局がみやの森カフェを取材したいと言っていますが、ご都合いかがでしょうか？」……まさに目を疑うメール！実は以前にも台湾の雑誌「秋刀魚」にも取材されたことがあります。しかし、台湾には知り合いも多くいるのでそういうこともあるかなと思いましたが、シンガポールとは！「観光資源がないので」ということでお断りしようかと思ったのですが、よくよく聞いてみると、テーマは「co-housing」「co-living」（共生）だとのこと。「富山・共生……」いろいろな言葉で検索したら「みやの森カフェ」がヒットしたとのことでした。



取材の日は、メンタルヘルスサポーターの研修や小中学生主催のたんぼぼカフェもあって、まさにごちゃませ。お昼ご飯も一緒に食べました。カレーとちらし寿司。キャスターの方が「ジャパニーズカレー大好き！」とのこと。取材は、中国語で話をして、それを英語に翻訳する人がいて、さらに通訳の和田さんが日本語に翻訳するという2段通訳！毎回のこと反省するのが「英語習っておけばよかったなあ」…ということでした。

主任児童委員・児童委員合同研修 「ヤングケアラー支援」

8月21日（月）、県民会館での主任児童委員・児童委員合同研修のシンポジストを務めさせていただきました。

テーマは「ヤングケアラー支援」。

基調講演は大阪公立大学准教授の濱島淑恵先生、

シンポジストは、富山市SSWの宮舟貴子さん、

黒部市の主任児童委員の開沢憲三さんと私（加藤）。

私がヤングケアラーという言葉聞いたのはもう5年以上前。私自身も代表理事の水野も障害もっている姉妹がいます。そういう意味では、元ヤングケアラーになるのですが、今流行語のように「ヤングケアラー」という言葉が多用され、マスコミにも取り上げられる風潮には多少抵抗感がありました。しかし、みやの森カフェで、子どもたち、若者たちの声を聴く中で、やはりこれは皆で考えていかななくてはならない問題だなあと思うようになってきています。調査、研究だけではなく、実際の支援もしている濱島先生のお話はわかりやすく説得力がありました。ヤングケアラー支援が富山でもスタートするようです。私たちPonteとやまもこの問題にどうかかわっていくか、じっくりと考えていきたいと思えます。



本当本当に **広告募集。** みやの森カフェに居る加藤へ直接お話いただくか、

0763-77-3733(みやの森カフェ)、 miyanomori.ponte@gmail.com へ そろそろ本当に 連絡を

募集中!

シェアハウスLiberoを凸凹ワケアリ文化の発信基地に！

「子どもたちが伸び伸び過ごせる広いお家がほしいなあ」「一人暮らしをしたい若者の願いを叶えたいなあ」と願っていたら、それが「現実」になったシェアハウスLiberoみやの森も、タケシとユウジという凸凹ワケアリ満載の二人が暮らし始めてはや半年経ちました。フリースタイルスクール（以下フリスタ）もLiberoを借りて活動できるようになり、今夏は、広い前庭にビニールプールが登場！おかげさまで子どもたちも楽しく猛暑を乗り切りました。（兄さんチームは夏バテ気味?!）

そして今夏は、クラウドファンディングにも挑戦しました。プロジェクトの目標として掲げたのが「凸凹ワケアリ文化の拠点」。みやの森カフェやフリスタの日常にも、凸凹ワケアリ文化は満ち溢れているのですけれども。

凸凹ワケアリの「素敵さ」をより多くの人に届けたい！

まず、手を挙げてくれたのが、「ごちゃまぜ専門職チーム」の面々です。国立大学の研究者、薬剤師、社会福祉士、理学療法士、薬剤師、精神保健福祉士…ずらり揃った専門職チームのメンバーをまとめるリーダーは、Ponteとやまスタッフとして活躍中の川合祐司くん。みやの森カフェでの偶然の出会いがきっかけで、意気投合した凸凹ワケアリ

メンバーは、「ともにいる空間でお互いを認め、元気になっていく」をテーマに話し合いを重ね、まずは「ごちゃまぜ専門職ラジオ」で発信しよう！ということで活動を始めました。



ごちゃまぜ専門職チームは、自分自身に発達凸凹があったり、その家族に凸凹があったり、人生ワケアリ凸凹というメンバーです。

私たちの思いや願いを、現在進行形で悩んでいるという人を含めてたくさんの皆さんに届けたいと思い、まずは「ごちゃまぜラジオ」で発信していくことにしました。

今の自分にとって「弱さ」だと思っていることは、本当に「弱さ」なんだろうか？一人で悩んで悶々としているより、例えば「Ponte」みたいな場所で、新しい視点を自分に取り入れて入れてみるのもいいのかも？などなど「ごちゃまぜラジオ」を聴いてくださったみなさんにとって、なにかしらの気づきになればよいな…と思い活動をしています。また、今後はリアルでのイベントを「シェアハウスLiberoみやの森」で開催していく予定です。みなさん、お楽しみに！！



Stand.fmのアプリをダウンロード。または、
<https://stand.fm/channels/64c86a4ad4e2cbde26b0520d>
 にアクセス(右のQRコードでもいけます)



募集中

本当本当に **広告募集。** みやの森カフェに居る加藤へ直接お話いただくか、

0763-77-3733(みやの森カフェ)、 miyanomori.ponte@gmail.com へそろそろ本当に連絡を

Ponteとやま フリースタイルスクールが NHK NEWS富山人にて 「元気を取り戻す新たな居場所」として紹介

NEWS
富山人
TOYAMA JIN

巷では学校の2学期が始まる直前でもある8月29日(木)、Ponteとやまフリースタイルスクール(以下フリスタ)の様子が、NHKニュース富山人にて紹介されました。

今回、番組制作をしてくださったのは、NHK富山の岩崎アナウンサー。決まったプログラムがない…自分の思うことをやり続ける…ルールは自分の使った食器を洗うことだけ…そんなフリーダムなフリスタの景色に、きっと戸惑われたに違いない(..) 岩崎さんは、猛暑の中、何度もシェアハウスLiberoに来てくださり、子どもたちの声を聞いたり、私たちにも話を聞いてくださったり。6分間という短めの時間ではありますが、素敵な番組にしてくださいました。ありがたいことに、その後、東海北陸版のニュースや全国版のおはよう日本でも再放送されました。去年はKNBのふるさとスペシャルに取り上げていただき(これは8月13日に再放送でした)、今年はNHK。だからといって、カフェの電話が鳴りやまなかったり、Libero前の道路が大渋滞したりなんて事態にはなっていませんが(笑)、たくさんの皆さんから「見たよ～」と声をかけていただいています。また、番組内では伝えきれなかったこともあるということで、「よむ富山人」に丁寧な記事を掲載してくださっています(右のQRコードで参照可。ホームページアドレスは以下 <https://www.nhk.or.jp/toyama/lreport/article/000/96/>)



「このフリースタイルスクールは、ひと休みして本来の元気を取り戻す、そしてもう一度前を向いて歩くことができる、子どもたちにとってそんな場所になっているのではないかと書いてくださったことがとても嬉しいです。

編集長家森の **目** 人間関係という蓄え▼新型コロナに困り、オンライン会議やテレワークが増えた。オンライン会議は場所/距離/時間の壁を取り払い、テレワークはワークライフバランスを後押し。働き手が減る今後、これらが更に定着するのは疑い無い▼では、**顔突き合わせての対応は不要なのか？** 答えは**No**。業種にもよるが、製造系職種と技術系/間接系職種が入り交じる職場では、**そういった対応を意識して取る必要性が逆に増している**▼様々な人が様々な立場で入り混じって仕事をする場所にはそれだけ無数の現場が存在する。オンラインで切り取れるのはごく一部。本音、顔色、雰囲気…大多数はオフラインで取得できる要素。難易度高い課題に遭遇した時、**顔突き合わせ、心通い合わせなければ仕事相手の納得性は高まらず、解決は遠のく。**「遠くでお前何偉そうに言ってるの?」と思われるのは良くない。たまたまオンラインで課題が解決できたとしても、それは以前から心通い合わせた人間関係の蓄えを消費しているに過ぎない▼2004年の秋、プロ野球オリックス×近鉄最後の試合。終盤の8回、球場に普段と違う空気が充満していく。その正体は「哀愁」。球場にいる人は感じ取れる。しかし、中継映像や現場音では哀愁は伝わらない。実況「(解説の)Kさん」近鉄OBの解説者K「(私に話を)振らんといて下さい…」男泣く解説者は声を絞り出し、数十年に積み重なるオフラインの思いをオンラインへ発露させた



みやの森通信 バックナンバーはこちらから

Ponteとやま フリーペーパー

検索



ホームページはこちらから

Ponteとやま

検索



97歳 つれづれエッセイ vor11

故郷懐旧(その2)

話題を左岸の林に移そう。林も私達の大切な遊び場だ。櫟の立木に混じった楠の作る緑陰が憩いの場で弁当や菓子などを分け合う。

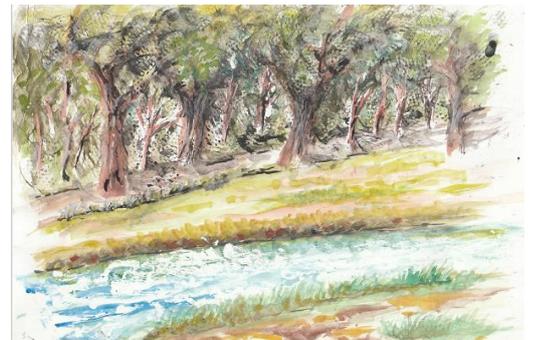
子どもは遊びの天才である。私達は様々な遊びをやり、飽きることがない。木登りは年長者の特権である。楠の樹幹の座りのよい所を拠点として枝から枝に移って冒険し、森の人を決め込む。年少者はうらやましそうに見上げていたが諦めて、林の奥に散って、鍬形虫や、甲虫を探す。ターザンごっこも人気のある遊びだ。林の中の手頃な枝に取り付けたロープにぶら下がり「わー、おー」と叫びながら地隙を飛び越す。活動写真(映画)のターザンのまねである。ついでに初代のターザンについて語ろう。ターザンは子供たちの具像であった。演ずるのはワイズミュウラーというオリンピックの水泳選手と記憶している。映画にチンパンジーがでて来るが嬉しいときは長い手で拍手し、とんぼ返りもやる。ターザンには恋人がいるが、彼女とのラブシーンには目を覆う振りをしたり、そのしぐさがなんともいえずユウモラスであった。

脇道にそれたが戻そう。森の中を歩いていると蛙か兎をのみこんで腹を膨らませた青大将に出会うこともある。彼はヌメヌメとした体をくねらせ草むらに消える。

ここの主(ぬし)なので私達は恐れと敬意をもって見守り、棒で追い込むようなことはしない。あるとき梢の鳩の巣を狙って木に巻き付いた縞蛇を見つけ、棒でたたき落としたこともある。後年、私は墓参りのついでにこの地を訪れた。私達の古戦場は市街地化して当時の面影はない。

私はかすかな記憶を頼りに歩き回った末、コンクリートスラブの下のせせらぎを探り当てた。やはり大川は生きていた。今は親兄弟、当時の仲間の大方は幽冥の彼方に

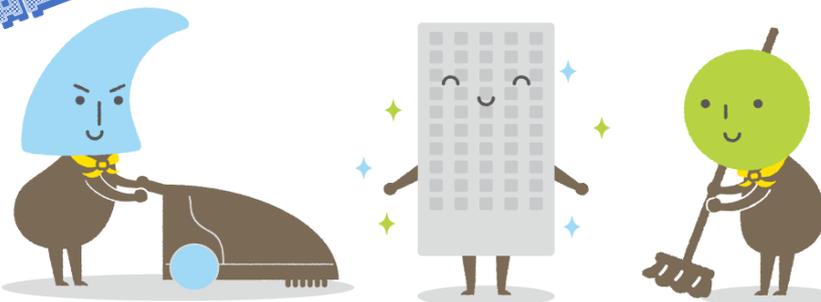
去った。私は胸に去来する一抹の寂しさに時の流れを想う。脳裡に浮かぶ夕焼け小焼けの歌に心を傾け、しばしその場に立ちつくした。



伊藤博芳(みやの森カフェのお父さん)

広告

誰もが働ける地域社会へ



建築物の内外の衛生的環境を確保し、ビルを利用する全ての人々に衛生的で快適な空間の提供を目指します。

スタッフ大募集(特に氷見市!)

電話かホームページのお問合せフォームへ

快適空間の創造を目指して・・・
株式会社アドバンス北陸サービス
Tel 076-295-7040

<http://www.advancehokuriku.co.jp>

ADVANCE Hokuriku Service

アドバンス北陸

検索